



『ばけばけ』では困るのです！？

今年最初のえん通信をお届けします。酷暑の後は極寒になるとか、日本海側の豪雪は例年にない深さで、高齢化が進む中雪下ろしもままならないと聞きます。朝の連続ドラマ『ばけばけ』テーマソング 2 番は「日に日に世界は悪くなる～♪」と始まりますが、まったくその通り。それにしても衆議院解散にはビックリ仰天しました。豪雪地帯では選挙ポスターだって貼れず、高齢者や障がいがある人々は投票に行くのもためらいます。投票率下げたいのかしらとつぶやいています。

えん通信読者の皆さんは、介護保険の相次ぐ改悪でタイヘンなことになっていることはご存知かと思います。3 ページ「院内集会」の記事にもありますが、2026 年内に介護サービス利用料の 2 割負担の対象者を増やす案を確定させると言っています。一人世帯の場合年収 230 万円以上が対象ですが、預貯金が 300 万円以下なら(自己申告)1 割負担に据え置くという案が示されています。特養ホーム入居の場合 2 割負担に上がったなら月額 2 万 3 千円以上アップし、ユニット型個室であれば月額 15 万円を超えてしまいます。在宅介護では必要なサービスの量を減らすしかない方もいらっしゃるでしょう。要介護者の生活の質は下がり、家族の負担は増え、利用が減ることで収入が下がる介護事業所の経営も悪化します。

何度もお伝えしましたが、介護事業所の閉鎖・倒産は増えるばかりです。他人事ではありません。ケアサポートえんでは 50 人を超える訪問ヘルパーの中で 2 番目に多いのが 70 代です。80 才を超えた方も一人います。退職したいと申し出られても交代できる若手が少なく、必死で引き留めることになります。たとえ生活援助(家事援助)であっても突発的に身体介護を伴う事態が起きることもありますから、高齢者に向く仕事とは言えないのですが…。若い人がこの仕事を望まないのは、第一に低賃金ゆえです。介護報酬がほぼすべてですから、報酬のアップを待つしかないのです。



利用者さんなどによる折り紙の節分飾り

とはいえ、介護保険料だって上がる一方でこれ以上の負担は求められません。国の負担比率を上げてまかなってほしいと要望していますが、色よい返事は聞こえません。防衛費は知らないうちに爆上がり、今回の選挙費用が 800 億円超というのにどうしてでしょう。黙っていたらどんどん悪くなるばかり。この記事を読んだ皆さん、周りの方々にも介護サービスの現状を伝えてください。まずは多くの人々に理解していただくことです。

代表理事 小島美里